

健康便り

北区自治会連合会協賛回覧

第27号

・眼科疾患の早期発見について

眼科 中島 幸彦

・ニューフェイスドクター紹介

・看護部長・事務長着任のご挨拶

看護部長 小野 祐美 事務長 野口 宣隆

・HOKUBUのなかみ (Vol.6医事課)

・シリーズ健康生活 (12.眼底検査でなにがわかる?)

眼科 視能訓練士 池田 亨子



眼科

中島 幸彦

眼科疾患の早期発見について

眼科疾患と聞いて思い浮かべる疾患はあるでしょうか？白内障、緑内障、糖尿病網膜症などが代表的な疾患だと思っています。今回はこれらのタイミングでの治療という観点からお話しさせていただきます。

・白内障

白内障とは、眼中でレンズの役割を果たす水晶体が混濁する疾患です。混濁により光の透過が妨げられ、視力低下が起こります(図1)。視力低下の他にも、眩しさ、霞み、ものが二重に見えるといった症状を訴える方もいます。多くの場合白内障の原因は加齢であり、発症のタイミングに

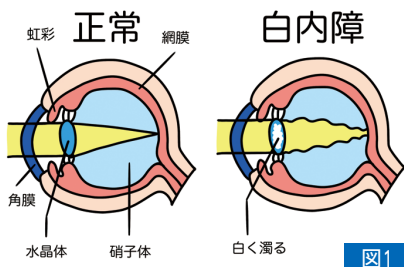


図1

は個人差がありますが、早いと50歳頃から少しずつ白内障が生じ、80歳頃には程度の差はあれほぼ全ての人に白内障を認めます。

一度白内障が生じた場合、目薬や飲み薬で白内障を無くすことはできません。視力低下といった症状が生じた場合、改善するためには手術が必要になります。また、年齢の進行により徐々に白内障は進行しますが、進行した白内障の手術は難易度が高く、合併症が起こる可能性も高くなるため、適切なタイミングで手術を行うことが大切です。視力低下といった症状がある場合は白内障が原因の可能性があり、早めに眼科を受診いただくことをお勧め致します。

・緑内障

緑内障とは、眼が得た情報を脳に伝える神経が障害され、視野障害が生じる疾患です(図2)。一般に視野障害はゆっくりと進むため、また両眼で見ること視野欠損部位が補われるため、初期には症状を自覚することは少なく、視野障害を自覚する頃には重症の緑内

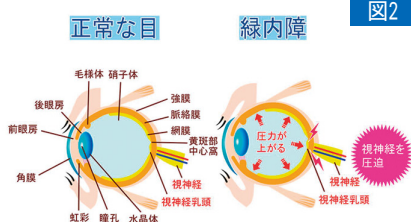


図2

障となってしまうことも少なくありません。さらに、緑内障による視野障害は回復することはできない不可逆的なものです。そのため、早期発見、適切なタイミングでの治療（緑内障の場合は早期治療）が大切です。治療は、一般には眼の硬さ（眼圧）を下げる目薬をすることで、緑内障の進行を抑制することを目指します。目薬では効果不十分の場合や、緑内障の種類によっては手術を行うこともあります。

40歳以上では20人に1人が緑内障を発症すると言われており、誰にも起こり得る疾患です。また、緑内障は日本での失明原因第1位の疾患です。早期発見、早期治療で緑内障の重症化や失明を回避できる可能性が高まるため、特に症状がない場合でも、定期的に眼科検診を受診していただくことをお勧めいたします。

・糖尿病網膜症

糖尿病網膜症とは、糖尿病により眼の中で光を感じ取る網膜が障害される疾患です。初期の段階で症状を自覚することは少ないため、進行し重症な糖尿病網膜症となつてから視力低下を自覚することも少なくありません。重症の糖尿病網膜症となつてからの治療では手遅れになってしまうこともあり、早期発見、適切なタイミ

ングでの治療が大切です。治療は初期の段階では血糖コントロールであり、内科の先生の指示に従って糖尿病の治療を行ってください。糖尿病網膜症の進行を認める場合は、眼へのレーザー治療や注射治療、そして手術といった治療を適切なタイミングで行います。

糖尿病網膜症は日本での失明原因第3位の疾患です。早期発見、適切なタイミングでの治療により重症化や失明を回避できる可能性が高まります。糖尿病と診断されている場合、何も症状がなくても定期的な眼科受診が必要となります。

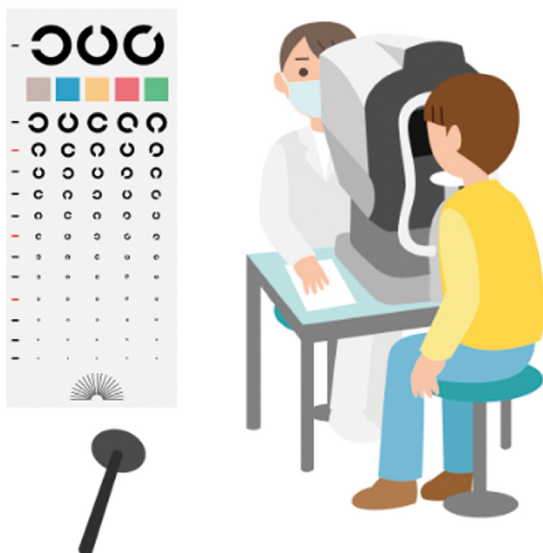
眼科診療案内

・白内障、緑内障、結膜炎、ドライアイ、糖尿病網膜症、黄斑前膜、網膜静脈閉塞症、加齢黄斑変性などを診ております。見えにくいといった症状がある場合や、検診で異常の指摘があった場合などは、お気軽に受診いただければ存じます。

・受診を希望の場合、月曜日から金曜日午前の一般外来にお越しください。予約は不要です。紹介状がある場合はご持参ください。白内障手術を希望の場合は、月・水・金曜日の受診ですとスムーズです。

・手術は主として白内障手術を行なっております。白内障手術は全例入院手術で行なっており、日帰り手術は行なっておりません。単焦点レンズのみの取り扱いであり、多焦点レンズ（遠近両用の眼内レンズ）やトーリックレンズ（乱視用眼内レンズ）の取扱いはございません。

・必要に応じ散瞳し、眼底検査を行います。ご自身で車を運転の場合は散瞳を行うことができません。ご家族に送ってもらう、もしくは公共交通機関での来院をお願いいたします。



ニューフェイス Dr.

紹介

新しくさいたま北部医療センターに赴任した医師を紹介いたします。

医師 関端 浩士
せきはた ひろし

診療科 整形外科
出身大学 埼玉医科大学 2010年卒業



はじめまして2025年4月からJCHOさいたま北部医療センター・整形外科に着任した関端浩士（せきはた ひろし）と申します。

出身はさいたま市（旧・浦和市）で、2010年に埼玉医科大学を卒業し、2年間の初期研修の後埼玉医科大学・整形外科に入局しました。埼玉県内の各関連病院で研鑽を積んだ後、埼玉医科大学整形外科膝肩スポーツ診で肩関節外科を中心に診療・研究に従事して参りました。

この度、さいたま北部医療センターに着任し、生まれ育ったさいたま市の方々に安心して生活してもらえよう地域に先生方と協力し、地域貢献したいと思っております。

また、専門としてきた肩関節の治療に対して

も近隣地域の皆様により専門的な医療を提供出来たら幸いです。

さらに、小中高生のスポーツ障害でも貢献できるように尽力して参ります。何卒宜しくお願いいたします

医師 黒川 学
くろかわ がつ

診療科 泌尿器科
出身大学 慈恵会医科大学 2014年卒業



2025年4月より赴任いたしました、黒川学と申します。大病院や市中病院で臨床の修練を積んできました。前立腺肥大症、尿管結石をはじめ幅広く手術、診療をしてまいりたいと思います。また、近隣との開業医との連携を図り、地域医療に貢献できるよう日々精進してまいります。

今後とも何卒よろしく願いたします。

医師 松本 洋祐
まつもと ようすけ

診療科 内科
出身大学 東邦大学 2011年卒業



2025年4月より赴任いたしました、松本洋祐と申します。

これまで東邦大学医療センター大森病院や、JCHO東京蒲田医療センターにて、肺炎、喘息、COPD、間質性肺炎、肺悪性腫瘍、睡眠時無呼吸症候群など呼吸器疾患全般の治療に幅広く

携わり、研鑽を積んでまいりました。

地元がさいたま市でありますので、その経験を活かし、地域の皆様の力になれるよう精進してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

医師 戸田 美波
とだ みなみ

診療科 腎臓内科
出身大学 自治医科大学 2010年卒業



私は大学卒業後、東京都の離島診療所で全科に渡る総合診療に従事し、その後は都立大久保病院で腎臓内科/透析領域の専門的研鑽を積みましました。

慢性腎臓病は、自覚症状に乏しいまま進行していくことが特徴です。早期の段階から原因精査や積極的治療介入を行い、腎臓の働きの維持・改善のため力を尽くしてまいりたいと思います。専門領域外のような健康問題に関しましても他科との適切な連携を図りつつ幅広く対応致します。「お一人お一人の個性や価値観を重視した、きめ細やかな医療」を目指しています。何でもお気軽にご相談ください。

医師 小澤 利佳
おざわ りか

診療科 婦人科
出身大学 東京女子医科大学 2020年卒業



令和7年4年より赴任しました、婦人科の小

澤 利佳と申します。

出身は埼玉県で、東京女子医科大学を卒業後自治医科大学附属さいたま医療センターへ入局し、修練を積んできました。

婦人科というと受診しにくい科ではあると思いますが、生理の量が多い、生理痛が重い等の月経に関する症状やほてり、イライラ等の更年期症状など、困っている症状がある際はぜひ受診いただけたらと思います。

地域の皆様のお役に立てるよう、丁寧な診療を心掛けておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

医師 **窪田 有希**

診療科 婦人科
出身大学 秋田大学 2020年卒業



今年4月から赴任になりました、婦人科の窪田有希と申します。

地域の患者様に寄り添い、丁寧に診察するよう心がけています。

婦人科関連で少しでも気になる症状がありましたらいつでもご相談ください。

医師 **中島 幸彦**

診療科 眼科
出身大学 新潟大学 2019年卒業



2025年4月より眼科を担当させていただきます。

きます。さいたま市出身であり、地元の医療に貢献できることを嬉しく思います。よろしくお願ひ申し上げます。

医師 **傳田 昂也**

診療科 放射線科
出身大学 獨協医科大学 2020年卒業



2025年4月より着任いたしました、放射線科の傳田昂也と申します。

放射線科医は、直接患者さんとお会いする機会は多くありませんが、CTやMRI等の画像診断を通して、様々な診療科の医師と連携し、診療に携わっています。

皆さんの身体や暮らしを少しでも良くしたいと願って働いているのは、顔が見える職員だけでなく、その背景にも多くのスタッフがいます。ですので少しでも安心して当院に足を運んでいただければ幸いです。

看護部長・事務長着任のご挨拶

看護部長

小野 祐美



初夏の爽やかな風が心地いい季節となりました。地域の皆様には健やかにお過ごしのことと

存じます。

今年度より看護部長に就任いたしました小野祐美と申します。

さて当院の看護部は、地域住民の期待と信頼に応えられるよう、誠実で思いやりのある看護の提供を目指しております。病院をご利用いただく皆様だけでなく、地域で生活されている皆様が安心して健康な毎日を送れるよう、多職種で連携し力を尽くして参ります。今後とも地域から信頼される病院であり続けるため、精進して参りますので、ご支援、ご鞭撻の程、よろしくお願ひいたします。

事務長

野口 宣隆



2025年4月より赴任いたしました野口と申します。埼玉県北浦和出身です。当院は2019年に新病院を開院し、医療機器やスタッフ体制の充実を図り、地域包括ケア病棟や透析治療の拡充を進めてまいりました。これからも医師会や地域の医療・介護機関と連携し、急性期から回復期まで一貫した医療を提供することで、地域の健康を支えていきます。患者様の価値観に寄り添った医療を提供するため、全力を尽くしてまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

HOKUBUのなかみ

当院の「な」仲間「か」環境「み」
魅力について、各部署・院内の様子な
どを中心に紹介します。

Vol.6

医事課

Q1 どんな仕事をしていますか？

医事課では、主に患者さんの受付から診療報酬請求までの業務を行っております。

医事課の中でも各分野によって業務内容は異なっておりますので一部紹介させていただきます。

①医事課事務室：外来と入院の患者さんの受付から会計・診療報酬請求

②各外来受付：各外来で患者さんがスムーズに診察に入れるようにするための受付業務

③医師事務作業補助者：医師の事務作業をサポートする業務・診断書作成の補助

④診療情報管理：カルテの管理・データの収集・情報提



▶受付業務

供（カルテ開示）

⑤さいたま市急患センター受付：24時間体制での土日祝日・時間外の電話対応・受付・会計業務

その他に、電話対応、書類手続きや施設基準の管理等を行っております。



▲診療報酬の請求を行います

Q2 仕事で大切にしていることは？

患者さんが来院して初めて接する窓口であり、病院の印象が左右される場所ですので、丁寧な言葉遣いと接遇を大切にしております。ロビーには患者さんが迷うことの無いよう職員を配置し受付や会計のご案内をしたり、直接患者さんとお話する機会が多いため、相談を受けた時にも柔軟な対応を行うようにしたりと医事課員一同努めております。

Q3

さいたま北部医療センターの
良いところを一言で！

通常診療のみならず、さいたま市急患センターを行っており24時間体制で対応しているところ。



▲わからないことがあればお気軽にお声がけください

シリーズ健康生活

12. 眼底検査 でなにが わかる？

眼科 視能訓練士
池田 亨子



梅雨入りも近くなり、季節の変わり目に体調の変化を感じる方も多いかと思えます。

人間ドック、職場の定期健診、自治体等の健康診断を受け、眼科での詳しい検査が必要と結果にあるけれど、特に普段の生活で困っていることはないからとそのままにされてはいませんか？

眼底検査からは、網膜や血管、視神経の状態を確認し、目や全身的な病気の早期発見につながる情報が多くあります。

すべての健診で眼底検査が行われてはいないため、健診の項目に追加するなど、目で気になる症状があるときには眼科を受診し、眼底に病気がないか心配していることをお伝えください。

●眼底検査でみつかるおもな病気

○緑内障(視神経乳頭陥凹拡大、視神経線維欠損)

徐々に視野が狭くなり、進行するまで視力が下がらず、異変に気付いたときには末期になっています。

日本人の失明する原因の第一位の病気です。

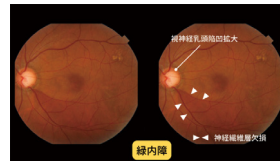
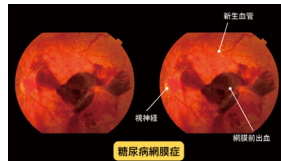
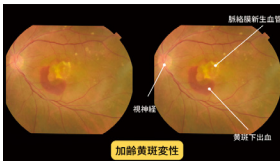
○糖尿病網膜症(眼底出血)

自覚症状がないまま進行し、見えづらいつ感じたり、かなり悪化しており、視力回復が難しくなります。

糖尿病網膜症を発症するまでの期間も1〜20年くらいの幅があるため、糖尿病の方は、症状がなくなるとも内科受診とともに定期的な眼底検査を受けてください。

○黄斑変性

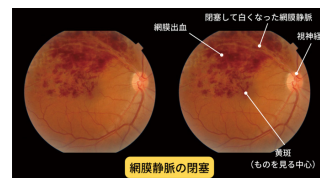
ゆがむ、見ようとする見えづらい部分がある、視野が欠けるなどの自覚症状が出やすく、最近では薬局にポスター掲示してある「アムスラーチャート」に



よるセルフチェックも有用です。

○網膜血管の動脈硬化・閉塞(眼底出血)

眼底は、体の外側から血管を直接見ることのできる唯一の場所です。高血圧、糖尿病、高脂血症などは動脈硬化が起きやすく、眼底の血管の状態を観察することで全身状態を予測することができます。



●眼底検査を受ける時の注意点

眼科で行う眼底検査は、健診時より詳しく眼底の隅々まで観察ができるように、散瞳薬を点眼し瞳孔が開いた状態で検査を行います。

散瞳薬を点眼し30分くらいで瞳孔が大きくなり、徐々にピン트가合わなくなり、手元が見づらくなります。

効果は3、4時間〜半日くらいで徐々に戻ります。

見づらくなるため、車やバイクの運転ができなくなります。

眼科を受診される際には症状や検査結果から散瞳して眼底検査が必要なものもあるため、ご自身での運転ではなく、公共交通機関や徒歩で来院していただきますようお願いいたします。

【発行】さいたま北部医療センター

〒331-8625 埼玉県さいたま市北区宮原町1丁目851

☎ 048-663-1671 (代表)

平日(月曜～金曜) 8:30～17:00

受診をご検討されている方のお問い合わせは、各診療科受付にお繋ぎいたします。

※ 8:30～9:00頃と、15:00～16:30頃はお問い合わせが多く、電話がつながりにくい可能性がありますのでご了承ください。



さいたま北部医療センターホームページ
<http://saitamahokubu.jcho.go.jp>

※上のQRコードから、健康便りのバックナンバーをご覧いただけます。